

雑司が谷旧宣教師館だより

第20号
2001年6月1日発行

豊島区立雑司が谷旧宣教師館

〒171-0032 東京都豊島区雑司が谷1-25-5 ☎ F A X (03)3985-4081

マッケーレブの プロフィール (4)

—— マッケーレブは教育パパ? ——

たくさんの著作を残したマッケーレブですが、自叙伝ともいえる著『ワンス・トラベルド・ローズ』（「かつて吾が歩みし道」1934年発行）の写しを、テネシー州のご子孫より寄贈していただきました。

内容は生い立ちからケンタッキー州の聖書学校を経て宣教師として来日するまでの経過、築地外国人居留地や四谷鮫が橋での伝道と奉仕活動、そして雑司が谷学院と教会の設立経緯など、当時の日本人の生活や社会情報を知る貴重な資料でもあります。その中の“A TALK WITH A JINRIKISHA MAM”（車夫との会話）の短い文の中にも、マッケーレブの人柄が表れていますのでご紹介しましょう。（本文は1898年頃に書かれており、マッケーレブは当時築地居留地に住んでいました。）



「人力車に乗って」

1月の厳寒の曇天の朝、道路はぬかるんでいた。私は約1マイル先の新橋駅まで人力車を頼んだ。車引きは5銭で引き受け、道すがら話をした。

「車を引き始めて何年になりますか」「20年に」「何才」「47歳」「子どもは」「6人います」「男の子ですか」「1番上が男で10歳になります」「学校には行ってるの」「貧しくて行かせられない」「いくらお金が掛かるの」「月に30~40銭（15~20¢

ト）「タバコは吸いますか」「もちろん」「1日いくら掛かりますか」「1銭半」「私は健康にも悪いし、高いからタバコは吸わない。ところで1日に1銭半ずつ貯めたら月に45銭になる。どうですか、小さな箱に穴を開けて、1日に1銭半ずつ貯めてみては。来月には子どもが学校に行けますよ。」*(1)


こんな内容です。厳格なピューリタンであるマッケーレブは、自らが創設した雑司が谷学院（1907年~1928年）*(2)でも禁酒禁煙とします。彼の信念は「日本の将来は立派なクリスチャンとしての品格を備えた青年の育成」であり、つね日頃から子どもや青年教育の必要性を訴え続けていました。

* (1) 明治33（1900）年より義務教育期間中の授業料は廃止されます。

* (2) 寮制で、昼間はそれぞれの学校で学び、夜は聖書と英語の授業を必須とした。（浜地）

ネジ花を育てよう

自然環境の中で自生している草花も、最近では少しづつ姿が見えなくなりとても残念です。雑司が谷近辺はまだ捨てたものではありません。ネジ花がたくさん見つかります。この花をみなさんと一緒に育ててみませんか。



日時	6月29日（金） 午前10時~11時30分
場所	本館中庭
講師	辻村京子氏、奥島正信氏 （区公園緑地課職員）
費用	350円（材料費）
受付	6月25日（火）9時より ご希望の方は電話で お願いします。
定員	先着20名です
電話	3985-4081

最近のレファレンスから

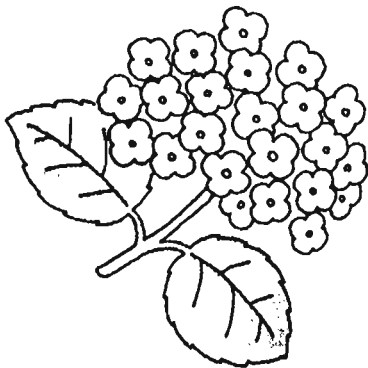
■染井霊園より、「ワイリック宣教師についての問い合わせが多いので資料を提供してほしい。」

□L. ワイリック (1856~1914) はオハイオ出身でマッカーレブと活動を共にした宣教師の一人。看護医学の知識があり、日露戦争時は新宿・戸山の準野戦病院を慰問し、東洋のナイチンゲールと呼ばれる。明治天皇から銀杯三個と表彰状、東京府からも感謝状が贈られた。大正3年、赤坂病院で59歳で死亡。染井墓地に眠る。ワイリックはハンセン病患者支援にも努めました。

■マッカーレブの多摩地区への布教等記録はありますか？(三鷹市・学生)

□杏林大学外国語学部観光学科の学生が、明治28年4月20日の府中の宿の宿泊名簿にマッカーレブの名前を発見。当館の主と同一人物かとの問い合わせ。名簿には、「J. マッカーレブ、アメリカ人、ヤリ教宣教師築地居留地12番地、32歳」と記載されていたようですが、まさしく本人です。

マッカーレブは1892年の来日以来金沢には英語教師として、また各地に布教に出掛けています。(浜地)



第12回ガーデンコンサートを終えて

5月13日(日)母の日の午後本館中庭で、恒例のガーデンコンサートが『わがまち雑司が谷』の主催により行われました。

当日は天候にも恵まれ、バラの花も今日のために咲き始め一段と引き立て役をしてくれました。朗読も暑いなが一生懸命、観客も聞き惚れて感心してありました。ハーモニカは年配の方が懐かしく聴いていたようです。透き通るような指笛の音色、学生の素敵な歌声が澄みきった青空の中に吸い込まれていきました。

館を見学に来られた方がたも足を止めて聴き入っておられました。実行委員の方もお忙しい中、お骨折り下さりまして心から感謝いたします。(角田)

— 周辺の名建築Ⅳ —

目白駅より目白通りを椿山荘方面へ向かうと左手にカテドラル聖マリア大聖堂が、右手には銀杏やけやきの大木が見えてきます。緑のトンネルをくぐり抜けると和敬塾です。

和敬塾本館

(目白細川侯爵邸)

細川家第16代細川護立によって建てられた洋館。昭和初期(昭和11年築)の代表的な華族邸の遺構。

鉄筋コンクリート造、地上3階・地下1階建て。銅板段瓦屋根。スタイルは英国チューダーゴシック様式を基本とし、室内は法隆寺高欄をヒントにしたとされ、随所に和洋折衷の表現がみられる。床面積1863.59㎡、正面西寄りに玄関ポーチを張り出し、南側には庭園に面して広いテラスを設けている。

1階は主に接客用に使われ、2階、3階は家族の日常生活用に使われていた。

*見学に関しては和敬塾へお訊ねください。

所在地(文京区目白台1-21-2)(角田)

来館者の声

*色々見られて触れて、すごく自由度が高い施設だと思います。安らぎ、いい所だと思いました。

(横浜 知人から 初めて 20代 4/26)

♣ ♣ ♣

*建物をはじめとして庭園の樹木がとても良く保存されているのに感動しました。雑司が谷の文学歴史についても、とても参考になりました。(文京区 雑誌の記事 自転車 初めて 40代 5/5)

♣ ♣ ♣

*テレビを見たり説明を聞いたり本を読んだりしてとても楽しかったです。私は5年生だけど漢字の読めない所があったので、昔の子はすごいな~と思いました。(文京区 花博祭り 自転車 初めて 10代 5/6)

【編集後記】

梅雨を目前にして紫陽花が今か今かと出番を待っているようです。7月には『ブルー-摘み』と『皆で作ってみよう』を思案中です。(文責 角田)